

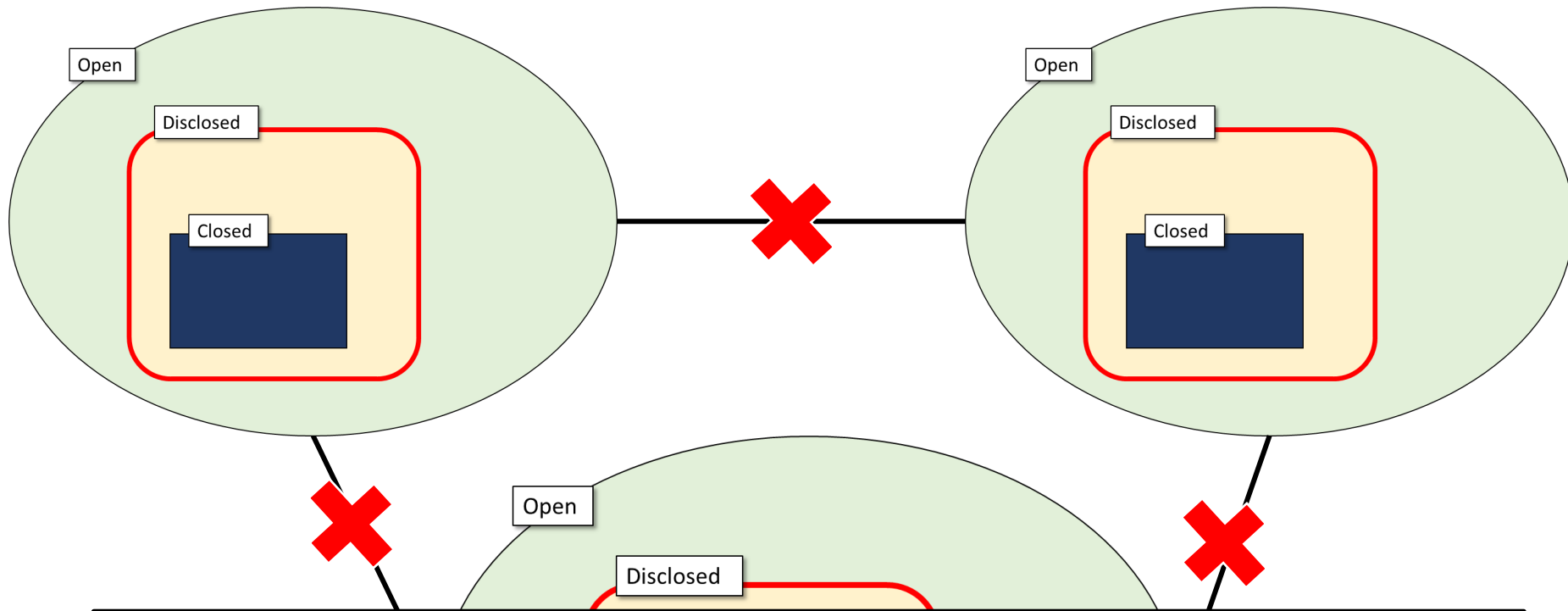
IVI公開シンポジウム 2018 -Autumn-

IVIプラットフォームによる  
ビジネスエコシステム  
IVI Platform 2019 事業概要

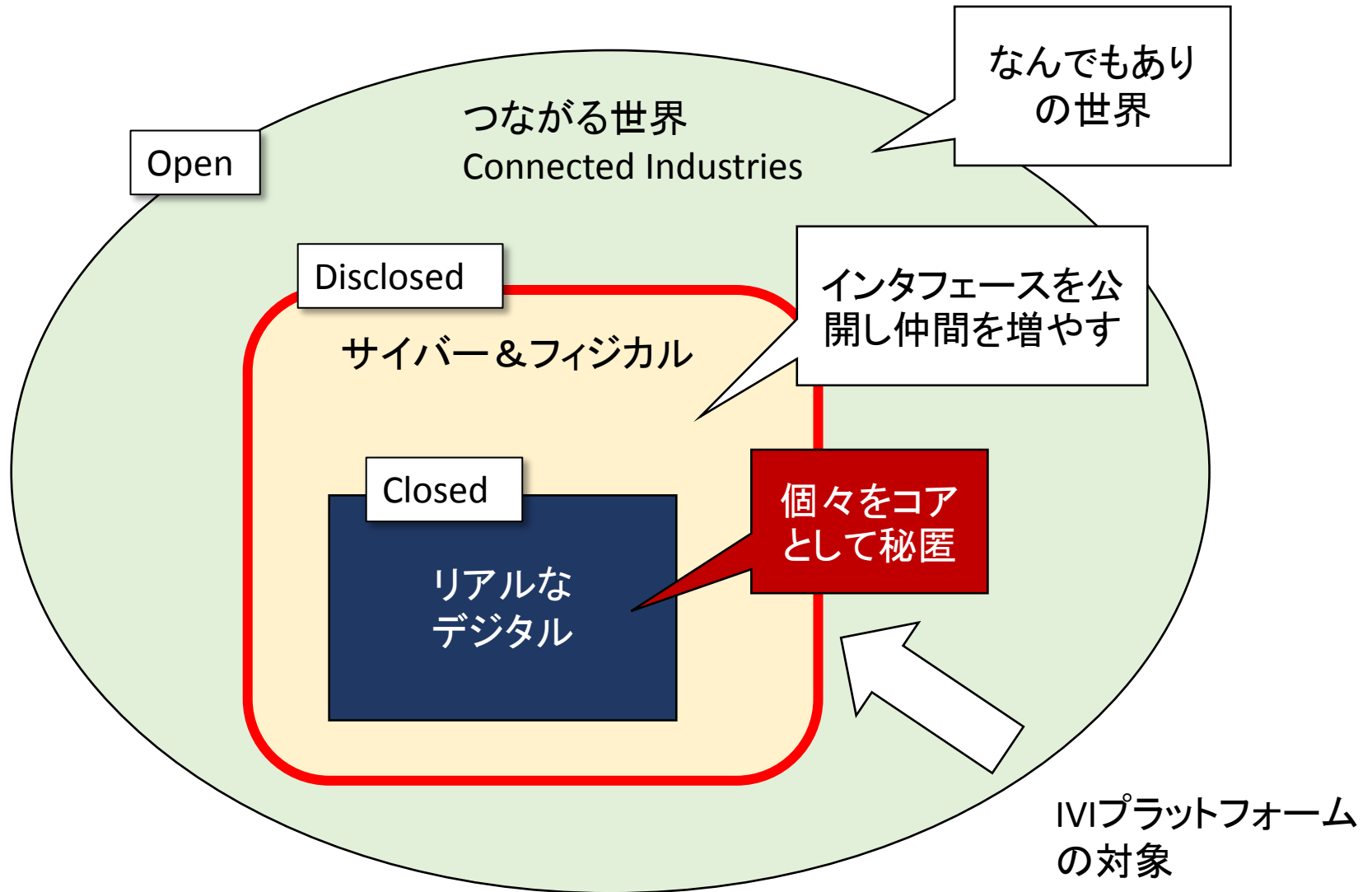
2018年10月11日

IVI幹事・プラットフォーム委員長  
青能 敏雄(ジェイテクト)

- IVIプラットフォームとは
- IVIプラットフォーム事業が目指すもの
- IVIプラットフォーム事業への参加方法と参加するメリット



- IVIプラットフォームとは  
「異なる業務やシステム間でデータを相互利用するためのしくみ」



# 製造業の新たな流れをとらえる！

## モノによるバリエーション (ドイツ流)

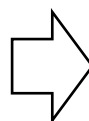


## コトによるバリエーション



単なる付加サービスだと差別化できない。製品に組み込まれたサービスであること。

販売した後もさまざまな「コト」に対応して製品の機能が付加される。



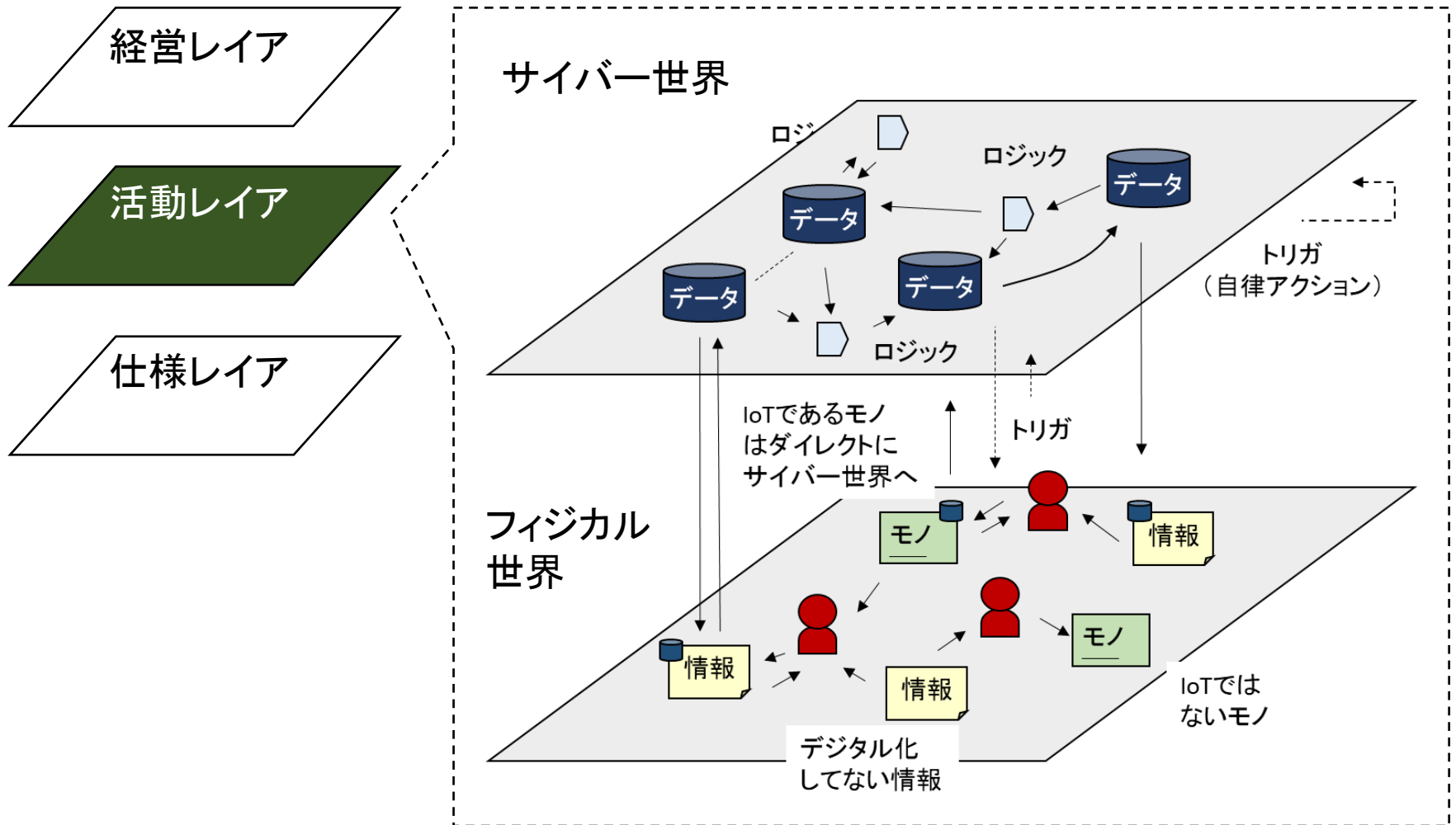
... ..

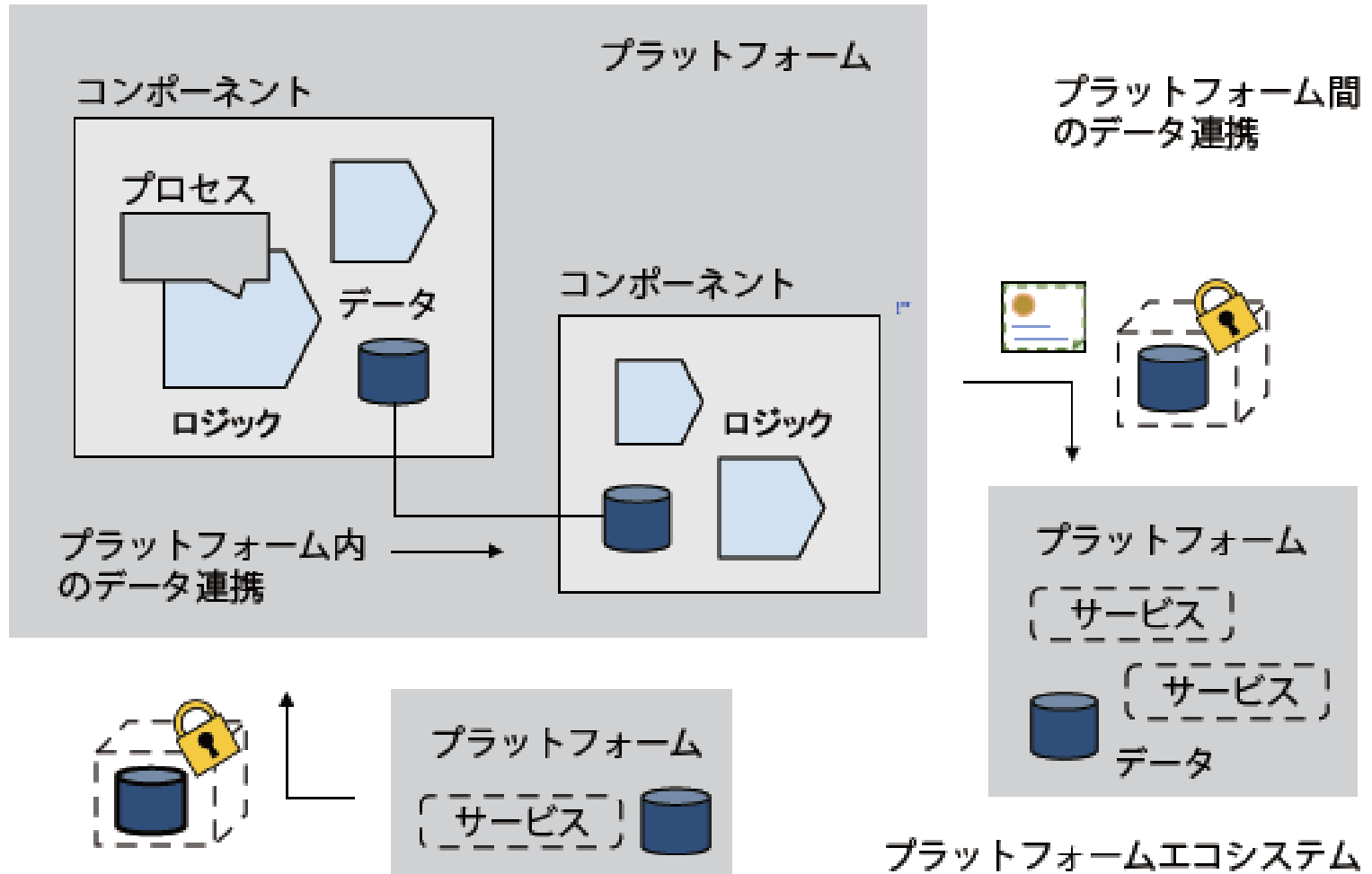


# IVIプラットフォームの主な対象

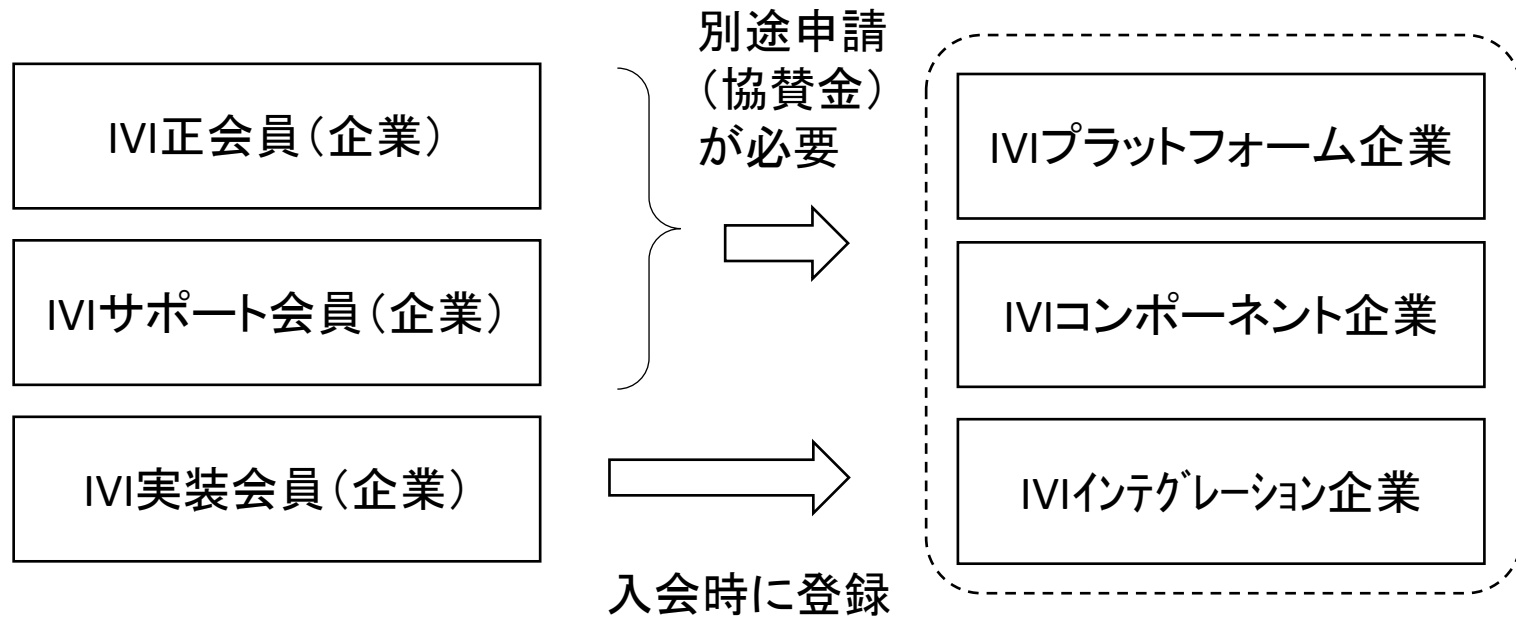


IVIプラットフォームとは、「異なる業務やシステム間でデータを相互に利用するためのしくみ」





IVI正会員およびサポート会員は、IVIプラットフォーム事業に参加するにあたり、別途実装会員になるのではなく、申請手続きで可能とする(従来の方式を踏襲する)





IVIプラットフォーム／コンポーネント申請企業

プラットフォームのグレード認定については別途検討

## グレード1

提供する製品やサービス単位(コンポーネント単位)で、その仕様をIVIMのモデルに準拠した形で提出し、その仕様の内容がIVIメンバー内で共有可能な状態となっている。

## グレード2

提供する製品やサービスが、IVIMの実装プロセスに従って実証実験等で実装され、その内容がユースケースとして公開され、かつ実装手順が開示されている。

## グレード3

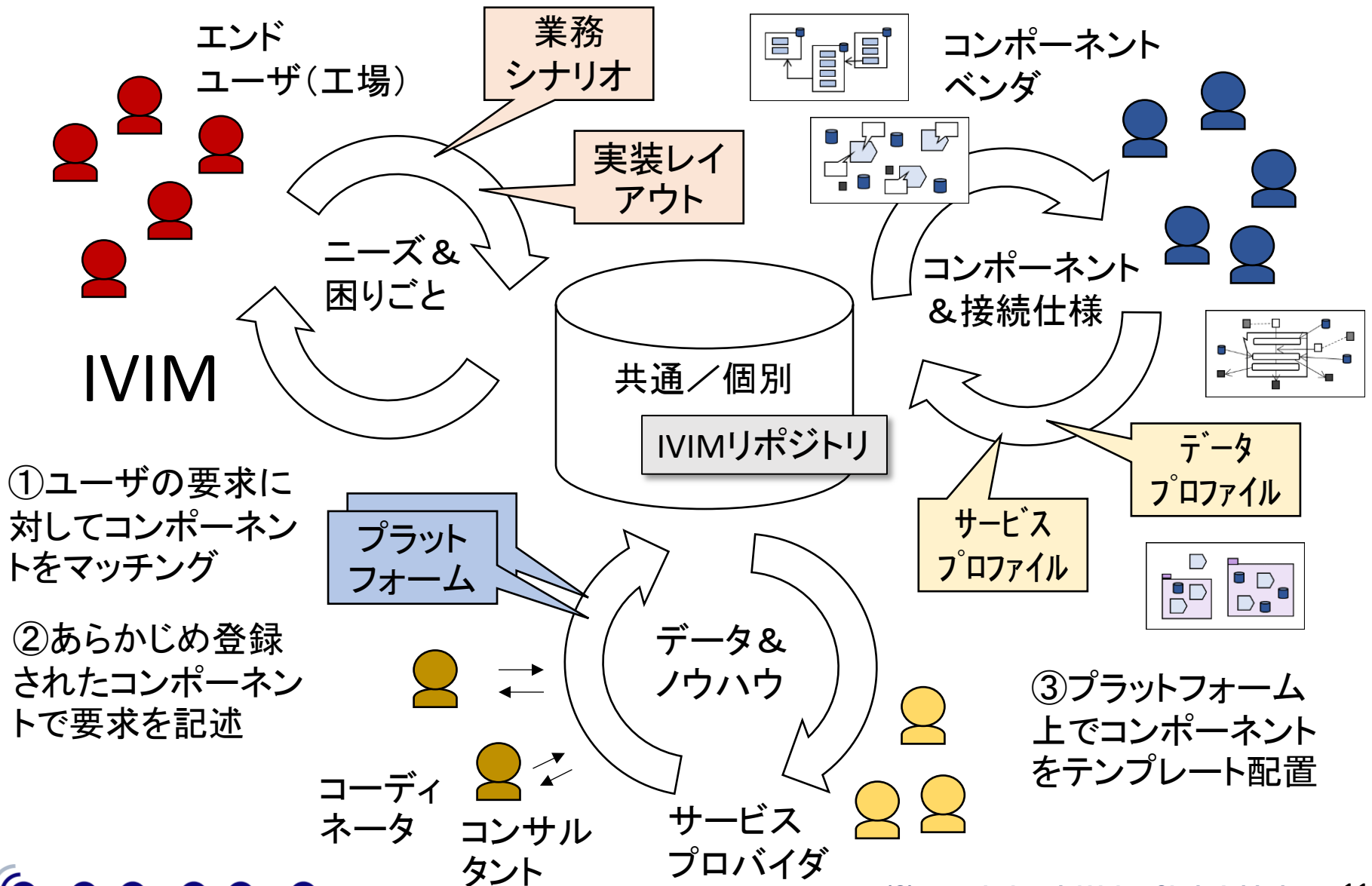
異なる製品やサービス間での接続可能性、相互運用性のための機能を有し、IVIMが定めた方式に準拠したテストベットによる試験に合格し、認証基準を満たしている。

コネイン(CIOF)の連携コンポーネントとしても同時に認定される。



- 認証(グレード)によって、提供する製品、サービスの外部接続性、相互運用性を顧客に対して訴求することが可能となり、販売促進のポイントとなる。
- 実際にインテグレーションのための費用と時間を削減することが可能となり、販売数の拡大、利益率の向上が見込める。
- 相互接続可能な他社の製品やサービスとあわせて顧客サイトに導入するケースが増え、ネットワーク効果により、Win-Winのビジネスモデルとなる。
- IVIのロゴやネームバリュー、あるいはコネインへの対応によるブランディングが可能となり、プロモーション効果をさらに高めることができる。
- IVIの辞書やモデラーなど、システム構築、連携のためのツールを利用することで、自社の強みを強化しつつ、未開拓な分野への展開も可能。

# IVIM共通リポジトリを利用したマッチング



IVIプラットフォーム、およびIVIコンポーネントは、IVIのホームページにその詳細な機能や実装例などを掲載します。特定の要件を満たしたプラットフォーム、およびコンポーネントは、各社の製品、サービスのプロモーション時に、以下のロゴを利用することができます。

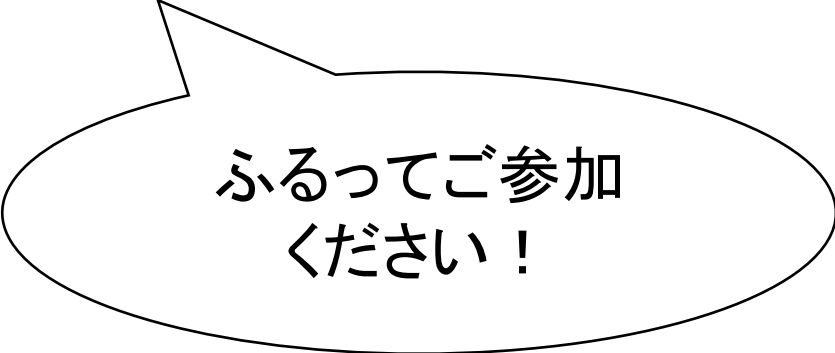


- 申請はプラットフォーム単位、コンポーネント単位とする。登録するコンポーネントが2つの場合は費用は2倍となる。
- グレード申請時（承認時）に申請者は登録費用を支払う。グレードに応じて協賛金が異なる。
- 協賛金は維持費用に相当し、グレードに変化がなければ協賛金を翌期以降（当該年度は登録費に月割りで加算）に支払う。
- 実装会員の会費には、上記の申請を1および登録を1つ行うにあたっての登録費と年度内の協賛金に相当する費用を含む。

説明会開催

日時:2018年10月18日15:30~17:00

場所:法政大学新見付校舎9階



ふるってご参加  
ください！